

<イエスさまと同じ舟に>

マルコ4：35～41

「向こう岸へ渡ろう。」

イエスさまは夕方になって弟子たちに言われた。

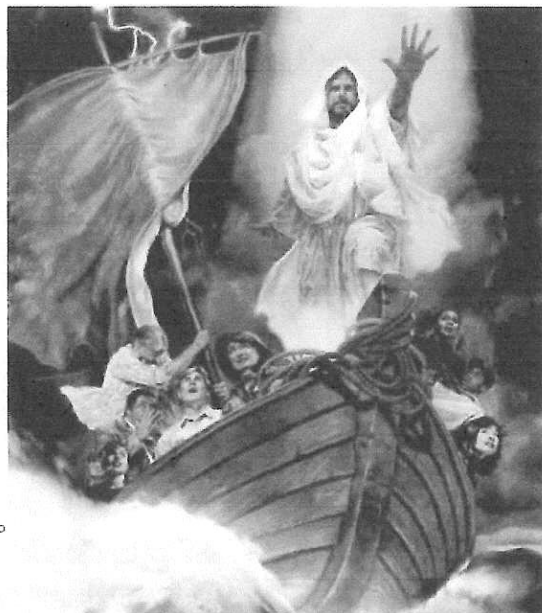
出発した舟は、途中激しい嵐に遭った。元漁師のペテロやアンデレさえも危険を感じる程の嵐。恐怖に覆われた。

イエス様を見ると……。眠っている！

「先生。私たちがおぼれて死にそうでも何とも
思われないのですか！」

イエスさま風をしっかりとつけ、湖に向かっていわれた。

「黙れ！ 静まれ！」すると大風に。



イエスさま 「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことですか。」

弟子たち 「風や湖までがいうことを聞くとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

一連の出来事は私たちに何を伝えているだろうか。

- ①イエス様と共にある航海は、嵐の中でさえ平安に行くことができる。
- ②イエス様の権威は、人間だけでなく自然さえを従う。創造主の力。
- ③弟子の信仰がどのようなものであったかが、この出来事を通して現れた。

『黙れ、静まれ、』 → “Quiet! Be still!” 「じっとして」

◆気象現象による嵐だけでなく、自分の身の回りにも吹き荒れる嵐がある。

焦る・恐れで心が一杯・慌てふためく

心の中の嵐に『静まれ、』と命じる。

「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」

詩篇46：10

He says, “Be still, and know that I am God:

I will be exalted among the nations, I will be exalted in the earth.” 英語訳

◆弟子達であっても、イエス様のことを知りつくしていたわけではない。

この方はどういう方なのだろう？

クリスチャン生活も、直面する出来事の中で、その度に御子イエスキリストを知っていく。

◆「恐れ」から「畏れ」に変わった。

彼らは大きな恐怖に包まれて互いに言った。【4 1 節】

恐れ・・・危険から逃げたいと思う気持ち。不安を感じる事。

畏れ・・・圧倒的な存在に対してつつしんだ態度になる。

神の偉大な力に触れ「神への畏敬の念」に満たされた。

◆イエス様は、どんな自然の力にも左右されない方。大自然の脅威の上に在る方。それらを統べ治める力のある方。自分達がまだ知らなかった神の御子の偉大さを弟子達はここで知った。

万軍の神、主。だれが、あなたのように力があましよう。主よ。あなたの眞実はあなたを取り囲んでいます。あなたは海の高まりを治めておられます。その波がさかまくとき、あなたはそれを静められます。 詩篇 89: 8、9

嵐の舟の中でぐっすり眠れるほどの平安。そして勇気と力が注がれる。

◆自分自身の一方的思い込み。もうダメだ・・・しかし、嵐に見舞われる恐怖に襲われながらも、そこにイエス様がおられるのを見出した。

◆走り続ける毎日。仕事、学校、子育て、介護など。自分がどこを走っているのかわからなくなってしまう?! 自分の位置を正確に知るためには、動かない基準で測定しなければならない。動かない基準は神さま。だから神を仰ぐ。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ」 出エジプト 20:8

「安息」 Sabbath (英語) / Shabbat (ヘブライ語) から由来している。

もとの意味は「止める、休む」

この日には、全てを一旦置いて、神に思いを向けて礼拝する。